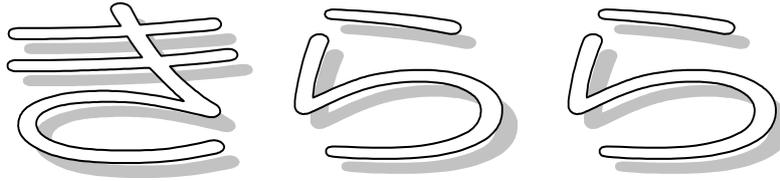




葦山南小学校  
学校だより

学校教育目標:ともに高め合う きららの子



令和6年4月 発行 第1号

「地域に信頼  
され、地域  
とともにある  
学校」を  
めざして

## 温かいあいさつと言葉を通してつながる きららの子

校長 土屋 貴俊

9日に入学式、着任式・1学期始業式を行い、令和6年度の学校生活が始まりました。本年度は新1年生29名を迎え、児童数303名・教職員数40名（非常勤職員、支援員等を含む）の体制でスタートいたしました。

集団登校の初日、子供たちのすばらしいあいさつに驚かされました。ほとんどの子供が笑顔で元気な声でできました。その中でも立ち止まり、お辞儀をしてあいさつをする子や「校長先生おはようございます」と二言あいさつができる子もいて、他者と積極的に関わろうとする雰囲気を感じました。

着任式では、6年生の榊原さんの歓迎の言葉からも南小学校の温かさやよさが伝わってきました。子供たちの思いが形になる学校であること。そのため児童会の行事が盛んであるということ。学校の主体は子供たちです。子供自ら考えを出し合いながら居心地のよい学校、楽しい学校を築いてほしいと願っています。子供たちの思いが生きる学校とするために、課題意識を常にもち子供たちと一緒に考え実現していきます。

また、始業式では3年生の齋藤さんと6年生の望月さんから新年度のめあて発表がありました。二人の話から約束やきまりを大切にしながら学習や委員会をがんばるという意気込みを強く感じました。みんなで約束ごとやきまりを共有することで子供たちの生活も守られ安心した生活をおくることができます。きまりや約束についても学校生活のなかで必要感を感じていることや子供が疑問に思っていること等があれば耳を傾け、形にしていきたいと思えます。

子供たちに始業式で二つのお願いをしました。一つ目は、人は必ず得意なことと苦手なことをもっているので友達の手先などばかり見るのではなく、よいところやできることを認め合いながら力を合わせて生活してほしいということ。

二つ目は、うれしいことや困っていることなどなんでも話してほしいということです。この二つに共通していることは、言葉です。言葉は、他者を切り離すこともできれば他者とつながることができる手段です。他者を大切に思い尊重する言葉によって互いに認め合うことができます。さらに、安心できる環境が生まれ自分らしさが発揮できる学校となります。一人一人のよさがきらりと輝ける学校となるよう学校・家庭・地域が一緒になって子供たちを支えていけるよう、ご支援ご協力をお願いします。